里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)地域の自発的取組を促す支援体制の強化
手法名	福井県重要里地里山30選と里地里山保全活用推進事業
主体	福井県自然保護センター
背景(地域の課題)	里地里山保全活動の継続性を確保したり地域への浸透を図るためには、地元の意識向上や地域づくり活動との提携が重要である。また、外部とのつながりや活動の推進段階に応じたきめ細かい支援体制の構築が必要不可欠であり、事業設定を可能にする制度や仕組みが求められる。
手法／方策の詳細	福井県では、絶滅した生き物の約6割は里地里山の水辺に生息していた。里地里山が県土の94%を占める一方で、その質の低下が問題とされている。そこで、多様な湿地生態系の再生を図るため平成20年に福井県環境基本計画が策定され、5カ年計画で取り組みが進められている。 その中で里地里山も位置づけられており、「福井県重要里地里山」が設けられ、地元主体の保全活動を推進する里地里山保全活用推進事業が取り組まれている。 1）福井県重要里地里山(図) 質的に悪化しつつある里地里山の生態系を把握し、保全するため、福井県自然保護センターは平成15年に県内全域を調査した。その成果をもとに、次の4つの条件に合った30地区を福井県重要里地里山として選定している。①絶滅危惧種の種類が多い、②絶滅危惧種の県内の代表的な生息地、③絶滅危惧種の繁殖地、越冬地、または旅鳥の重要な中継地、④絶滅危惧種の県内の唯一の生息地である。 2）里地里山保全活用推進事業 福井県自然保護センターでは、平成20年度より重要里地里山を中心に「里地里山保全活用推進事業」を実施。里地里山の生態系の保全と、地元主体の保全活動の推進を企図している。内容としては、生態系・絶滅危惧種の把握と保全対策、地元住民と地元学を実施し、生物調査・保全活動を行い、保全と活用のための計画を策定する。 事業後は、地元主体の保全活動への人的・予算的サポート（保全協定）をする。人的支援では、保全作業の効果測定や、地元が実施する自然観察会などに講師を派遣する。予算的支援では、保全活動を地元団体が行うことについて、その必要経費を県と市町村とが負担する。現在は、1団体「水と緑を守る農家と市民の会」が県と越前市とで保全協定を結んでいる。
手法・技術的視点	里地里山の保全再生や生物多様性保全のためには、地元住民の協力や活動段階に応じた切れ目のない支援体制が重要である。本事案では、専門機関の調査を端緒としつつ、地元住民への普及と地元主体活動への誘導、さらに地元が自立した活動へ展開できるよう後続の支援事業が予定されている点で着目される。

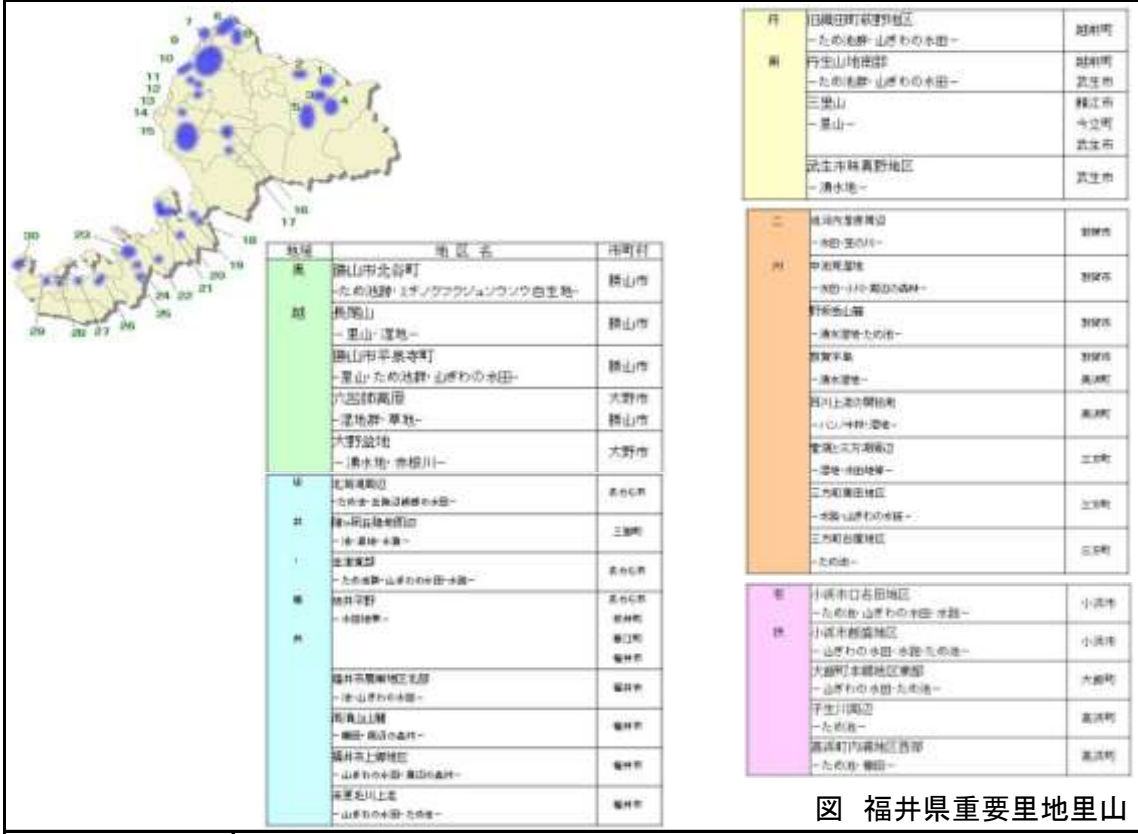

図　福井県重要里地里山

参考資料	里なび研修会in福井　福井県自然保護センター